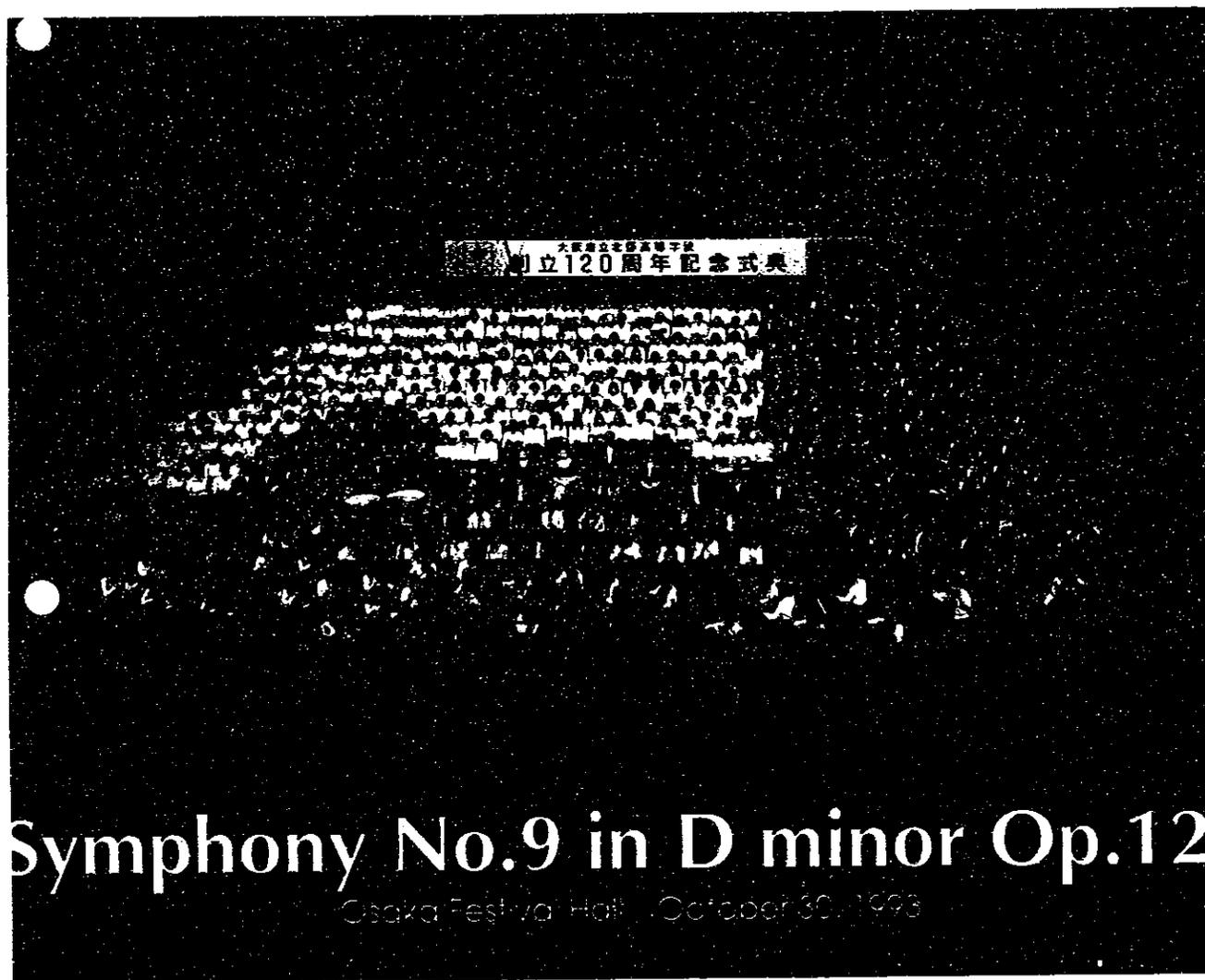


六稜舎報

平成6年5月20日発行
発行 大阪府立北野高等学校内
六稜同窓会
〒532 淀川区新北野2-5-13
電話 06(303)0374 代表
担当 00990-4-68025
六稜同窓会名簿口座
振替 00910-7-309004
編集 山本次郎・青 正徳・樋口日出雄
岸田知子・藤田俊一
印刷 フジエフォート印刷
電話 0729(87)8254

NO. 27 1994・5・20

創立百二十周年記念特集号



関野 修 (58期) 撮影

創立120周年祝祭

オール北野オーケストラ・合唱団
指揮者 豊島和史君 (81期)

第九演奏から 創立 120 年



北野高校創立 120 年を祝う記念式典は平成 5 年 10 月 30 日、大阪・北区のフェスティバルホールで在校生、OB ら 3220 人が参加して盛大に行われた。

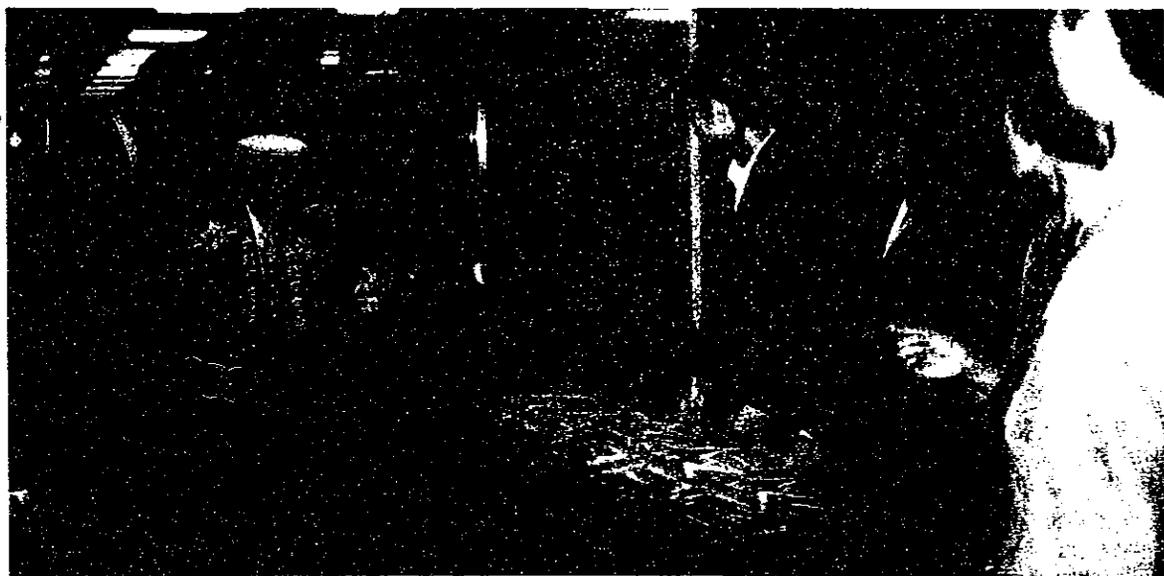
午前 11 時 15 分からの学校式典の後、メイン行事のオール北野によるベートーヴェン『交響曲第九』の演奏。ソリスト＝田中千恵子、竹本節子、小林正夫と旧職員の木川田誠の 4 氏、オーケストラ＝六棧交響楽団 90 人、コーラス＝六棧混成合唱団 380 人で、在校生、OB ら 2000 人を超す観客を魅了した。

そんな興奮が続くなか、98 期の谷卓司氏の企画、制作による『映像で綴る わが北野 120 年の風景』が上映された。

引き続き行われた合同式典では、足立堯校長が『創立 120 年の記念すべき年を、生徒、卒業生、保護者ら多くの人と迎えられることは大きな喜びで、光栄だ。多くの先輩が北野の発展を真剣に訴え、今日まで営々と築かれた北野の気風を維持し、発展させることが後に続くものの責務である。六棧の星の永遠の輝きを念じつつ』と式辞を述べた。

河崎晃夫同窓会副会長は『学校、同窓会が一体となって記念事業に取り組んだ。今回の記念事業は皆様方の献身的な努力と深いご理解に支えられたもので、関係各位のご努力に感謝したい。母校の卒業生は 3 万有余人でそのうち 2 万人ほどの消息は判明している。同窓会は大正 13 年に発足した。これまでヨコの連絡は色々やられていたが、タテの関係がどちらかと言えは疎遠だった。これを機に充実発展させたい』とあいさつした。

六稜会展まで 式典 成功裡に!!



記念講演では、講師の森毅京都大学名誉教授(58期)の話術にも誘われて、会場の雰囲気はぐっと和み、北野時代の思い出から、教育や社会全般にわたってユーモアたっぷりの「森節」に聴衆は耳を傾けた。

司会役を西村一男(60期)、中村智子(99期)両氏から大谷健二氏(70期)にバトンタッチして、いよいよフィナーレ。そろいのTシャツのOB、現役応援団員と結成されたばかりのプラスバンドが舞台上に登場。新旧の応援旗のもと、伝統的な応援スタイルを披露、応援歌と校歌を斉唱して北野フェスティバルは感動の幕を閉じた。

その後、会場を北区・ロイヤルホテルに移した記念祝賀会。69期の菅正徳氏の司会で始まった。参加者はおよそ1000人。期ごと、クラブごとそれぞれのテーブルで乾杯の唱和がつづき、先生はあっち、こっちとひっぱりだこだった。全員が肩を組んで「六稜の星」を歌い、記念すべき、「熱い北野の一日」は終わった。

これらの行事に先立ち、六稜会展が9月30日から10月4日まで大阪・梅田のナビオ美術館で開かれた。佐伯祐三、吉原治良ら卒業生の学校所蔵品と、美術、工芸、写真、漫画、建築、書、デザインなどの分野で活躍する卒業生、旧職員ら有志の作品計120点が展示、期間中、4000人が訪れた。

また、11月2日から4日まで、母校図書館で「北野120年展—史料と作品」が行われ、多くの現役、卒業生も鑑賞した。

気楽に過ごせた北野 (記念講演)

軟弱非国民少年の典型



森 毅 京都大学名誉教授 (58期)

つの性格があって、教師は教えたことがどう伝わっているかを調べたくなる。それが、過去に何を学んだかをテストしそれを評価するのが学校の成績だ。それだけに、成績は教わった範囲をしっかりと勉強すれば良くなるわけで、未来を予測する受験の成績は、そういう意味で範囲がないわけ、ボクはいつも範囲なしで勉強していたので、受験はよかったが普段の成績はバツとしなかった。

そしてよく学校をサボッタ。初めてのサボりは2年生の時、新聞で新しい粒子を発見した湯川秀樹氏の講演があると知って聞きに行った。が、何のこことやらさっぱり分からず、ほとんど居眠りしていただけだった。

こんなことからサボリだしたが、親父はそれを大目に見てくれて2つの条件を出した。一つは落第するほどサボルな、もう一つは、サボッタからには納得できる一日をすごせ、というものだった。これは十三、四の子供にはかなりのプレッシャーだった。学校サボって家で勉強したりして、何してるこっちゃいうこともあった。

とはいえ、サボリ方はだんだん上手になってコツも覚えた。一時、ビートたけしの『皆で渡れば怖くない』がはやったが、これは駄目で「一人で渡れば危なくない」というのがそのコツだ。サボルといういわば少年なりの格好よさは、ヒロイズムを刺激するが、そのヒロイズムが危険で、単にしんどいからサボルに徹するのがよろしい。

例えば行軍とか勤労奉仕などで、いつの間にかひとりですーと消えるのに限る。目立たないし、だれもがうまいことしよったなあと思うぐらいで、これは結構おもしろかった。120年の式典でサボル話はちょっと場違いに思うが、それほど北野が良かったということに尽きるのだから、こんな話をしてるわけです。そんなふうにならなかつた軟弱非国民少年だったんですけど、クラスには愛国少年もいる。非国民をしているのに飽きると、たまには愛国少年のグループに行ったりする、そしてまた戻る、そんなことがごく自然にできた。そこで思うのは、よい仲間とは、いつでも抜かれて、いつでも戻ってこられる、そういう仲間だということです。中学生の悩みの相談なんかしていると、今の子供たちは一色になるのを求めているようだ。そういうのを「仲間」と思っている。いろいろな人がいるのが一番いいんですけどね。

今、就職難とかいって騒いでいる。卒業イコール就職というのは昔はそんな風には決まっていなかった。今でもアメリカの大学生で卒業して就職が決まっているのはだいたい半分ぐらいだそうですね。ちょっとアジア回ってくるとか、何か他のことしてから進路を決める。

北野が創立120年を迎えたというのは凄いですね。ボクの今まで生きてきた歳の倍近くになるのです。特にボクらの時代は戦前、戦中という暗い時代でした。ボクはそんな時代の軟弱非国民少年で、学校一軟弱だったように思います。昔の同級生らと話をしていると、頑強な人ほど早死にしているようです。軟弱なボクなどは、ひょっとしたら120まで生きられると言う感じです。

戦後、北野に関して受けたカルチャーショックは、十三の駅を降りたとき、手も触れたこともなければ、見ることもすら恥ずかしかった女学生が、北野のマークを付けていたことだった。それは大変なショックでした。

北野の良いところは、ボクみたいな軟弱な人間をも自由に包み込んでくれたことで、おかげで結構気楽に過ごせたように思う。北野に入学したのは昭和15年、紀元2600年で入学試験も体操と口頭試験だけだった。軟弱な人間だけに「こりゃあかん」と思った。が、入学できたのは神風が吹いたおかげです。といっても風邪を引いただけです。体操の試験で、寝ていた休養室から呼び出され、ふにゃふにゃの軟弱ぶりをみせたところ、試験官があれは風邪のせいだと錯覚して通してくれた。

また口頭試験のため参考書などで勉強したが、ちょうど紀元2600年とあって、「今年はどういう年か」と聞かれた。「2600年で、めでたい年だ」といったところ、試験官は「それなら2601年、2602年のもっとめでたくなる」といったので、子供心に試験官は選別しているなと気が付き「毎年めでたい、めでたいといっていたら人間もめでたいと思われし、ちょうど区切りめでめでたい」と答えたら、大笑いされたが合格した。

北野時代を振り返ると、学校の成績は真ん中ぐらいだったが受験の成績は良かった。そもそも学校の成績と受験の成績の両方を良くしようというのは厚かましいことだ。テストには ①過去を調べる ②未来の予測 の二

京大あたりにもそんなのがよく来ています。卒業してすぐに会社などの仕事に就くという体制ができたのは戦争のせいだと思う。戦争中はとてもぶらぶらしておられなかった。ここでちょっと考え方を考えてもいいのではないのでしょうか。

ボクたちの時代の国民学校令は戦時立法で、学校が窮屈だった。ボクは北野から三高と日本で一番リベラルなところに身を置いていたので、自由に物が言えた。しかし、大阪の町でも「兵隊に行く」という人の声を聞いた。「お国のために兵隊にいくと言うのが気に食わない」という人もいた。「学校にある松の木のため、妹を守るため」とか言う人もいた。「それなら国のためというのも五十歩百歩だ」と自分の意見を言って、先輩に軟弱と説教された。

当時、一兵卒として戦いますと言う言葉がはやり、戦う一兵卒が日常用語になっていた。時代はぎりぎりの状況だったのだろう。

戦後、酒を飲むときみんなの手拍子がチョンチョンとマーチのリズムになっているのが気掛かりだ。ひょっとしたら戦争文化ではないかという気がしている。

優秀な高校生を早目に大学で教育しようという話がある。僕は京大にいる時、これに反対した。早く大学に入れて駄目にしてしまうと。天才を育てると言うが、天才は育てるものではなく、勝手に育つ。それに、世の中の変動期に天才は現われる。江崎玲於奈は僕の少し上、広中平祐は少し後の人だが、どちらも世の中が大変な時期だった。そういう時は、人と違う道を行っても誰も何も言わない。一列行進していて、ふつうやったらついていけない者が、ちょっと別の道を行っただけなのに、みんなより早く行ける。しかし、時には回り道せねばならないこともある。そういう賭けはあるけれど、その中で天才は育っていく。

今という変動期にこそ、若者には、成否を賭けて、人と違う道を歩いてほしい。

（講演の全文は紙面上、掲載できませんので森先生の北野時代を中心に要旨としてまとめました。文責は編集委員会です。）



優れた業績に認識新た 北野120年展—史料と作品



平成5年11月2日から4日まで母校図書館で展示された「北野120年展—史料と作品」にも多くの卒業生や現役の皆さんが、熱心に関覧し、先輩の優れた業績や北野の歴史に、認識を新たにしていた。

同展を担当した柏尾洋介北野高校特別講師は「とくに今回は「文化史としての校史」にそくした史料展示を心掛けた。また会場を時計回りに左から回ると、ほぼ年代順に本校史をたどることができるように配慮した」と。

その配慮通り、見学者からの評判も良く、あるOBは「見やすかったし在校中知らなかった事がほとんどで、改めて北野の素晴らしさを知りました」との感想を寄せている。

展示品の一部を紹介すると—

★元京大総長で考古学の権威濱田耕作が、明治31年に北野を退校させられた時の怒りを父親に報告した「放校処分前後之事実報告」のコピー。

★野間宏(45期)の同人雑誌「三人」のころのコピー

★明治22年から大正6年度までの行事や生徒職員の状況を大阪府に報告した草稿の年次ごとのつづり。

★大正4年10月、当時の梶山延太郎校長名で東京音楽学校に依頼し岡野貞一助教授が作曲した「北野中学校校歌(原譜コピー)」と関係史料。

★昭和24年春の選抜(21回)大会で優勝した「全国高校選抜野球大会優勝旗」など。

★明治29年3月に発刊された校友会の機関誌「六棧」第1号。昭和16年4月に戦時体制で報告団に改組されるまで続いた記念の第1号。

★大正13年6月に発刊された「六棧同窓会報」第1号。—など。

企画担当の66期で小出猛北野高校教諭は「学校が持っている史料の中から、社会に大きく貢献された先輩の業績の一端と、120年の歴史の中で残された中等教育の貴重な史料を多くの人に見て頂き、北野に対する一層の理解を深めて頂けたものと思っています」と話していた。

高らかに響く『第九』

熱演に“ブラボー”



指揮の豊島和史氏(81期)の手が降りた途端、拍手の渦がフェスティバルホールの舞台と客席を包み込んだ。

「ブラボー」の声が再三起こる。1時間半に及ぶ演奏を終えて、オーケストラも合唱団も上気した顔に一様に満足感をたたえていた。最年長85歳の川瀬勇氏(39期)が紹介されると再び大きな拍手……。オーケストラも合唱もオール北野で、という文字通り記念すべき「記念音楽会」は、こうして大成功のうちに幕を閉じた。

10月30日が近づくにつれ、新聞各紙が「北野OBによる第九」の記事を掲載するようになった。ほとんどは大阪の地方版であったが、日経は文化欄に六校楽友会会長の野口藤三郎氏(53期)が「OB・現役〈第九〉で心一つ」の見出しで報じ、大きな反響を呼んだ。事務局にも、今からでも入場申込みが可能かとの問い合わせが多くなった。現役生徒1・2年生と、4月で締切った予約者で満席状態のため、断わらざるを得なかったのは誠に残念であった。

前日には吹田のメイシアターの中ホールで最終練習が行われ、4人のソリストとの初顔合わせ、声合わせとなった。雨の降る中、仕事増りの人、子供連れの人など、午後6時前から集まりはじめ、オーケストラの音合せ、合唱団の発声練習、起立の練習のあと、遙して演奏が行われた。客席は合唱団員とその家族や友人でほぼ満席だ。その夜は9時まで練習が続けられた。

いよいよ当日、出演者の朝は早かった。午前9時には全員集合。着替えをすませて、合唱団はロビーで発声練習。オケは音合わせ。学校式典の間は映像を見るゆとりも。休憩時間に舞台裏に入る。12時45分、開幕。野口楽友会会長のユーモアあふれるあいさつのあと、森繁久弥氏(45期)より送られた「指揮棒」が豊島氏に手渡され演奏は始まった。

ベートーヴェン「交響曲第九番ニ短調作品125」、指揮—豊島和史、ソリスト—田中千恵子・竹本節子・小林正夫・木川田誠(旧職)、オーケストラ—六校交響楽団90人、コーラス—六校混声合唱団380人。この日、舞台上上がった人、スタッフとして最後まで裏方でがんばった人、そして客席にいたすべての人が、この日のことを忘れないだろう。

後日、参加した人達から、ぜひまたやりたいと言う声が届いている。このまま終わりにしたくないというのは、関係者すべての気持ちである。必ずや、その思いは実現されるであろう。



〔記念映像〕

映像で綴る・我が120年の風景

長い六校同窓会の行事にも今までみられなかったマルチメディアによる歴史回顧が登場した。

仕掛人及び製作者は 谷 卓司氏(98期)、(本誌プロフィール欄に登場) 120周年事業のアイデア募集の呼びかけに応募して採用されたもの。

フェスティバルの大画面を三面に仕切って、多角的に写し出される北野120年の歴史は聴衆を魅了した。

1年間にわたる取材製作には総合プロデューサーの西村一男氏(60期)、康浩郎氏(68期)をはじめとする六校人のサポートがあったものの、その完成までには筆舌につくせぬ苦勞もあった。中でも会員の中に眠っている資料の掘りおこしは充分とは言えない。しかしそれでもこの作業の中での500枚にのぼる映像ベースは貴重なものとして引継がれていく。

マルチメディアの時代に向って、六校同窓会に大きな石を投じた企画だった。



欧学校設立府令の文字が飛び込んでくる。そして現在の北野高校などの空からの風景が映し出されるファーストシーン。タイトルの「わが北野120年の風景」の文字が、重厚にせまってくるのだ。

北野の1年間と120年が、同時に進行する。クラブ活動や体育大会の映像は、OBにとって現役時代の残像と重ね合う。現役の諸君らは、映し出される自分たちの姿に、恥ずかしそうにするもの、「ああ、映ってる」などと歓声を上げるもの、といろいろだ。だが、映像が映し出す光景は、いかなる名文も、長文も及びつかない感動を呼び起こした。

わずか、23分13秒のドラマだが、オール北野の心を打つ。

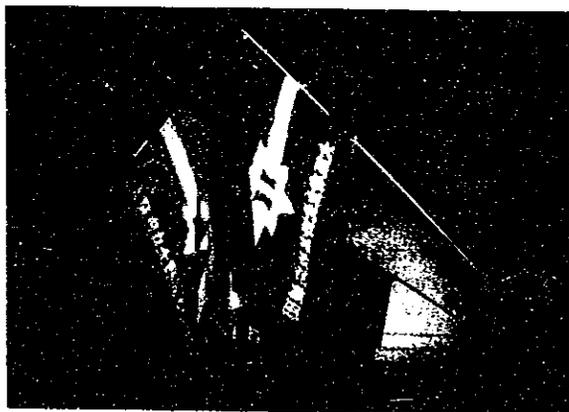
製作者の谷氏は「ヘリコプターの空撮まで出来てよかった。納得のできる仕事だった。と感慨深げだ。

120年史を飾るこの映像、北野の歴史だけでなく、日本の教育史にとっても価値のあるもので、ぜひ残したいものだ。

〔式典フィナーレ〕

応援団主役に緊張

吹奏楽同好会と競演



応援部は常にわき役に徹した長い歴史がある。実行委から式典フィナーレのステージに、という話は驚き以上のものだった、という。

いよいよ“主役”に、応援部OBは緊張の連続、それでもテーマを「ばんから、スマート」に決め、暗れ舞台に臨む決意を固めた。折りしも「北野吹奏楽同好会」の結成を耳にし、合同出演の話も決まった。

現役部員不在の応援部は、運動部有志5人の協力を得て、練習を始めた。OB11人を含めた総計16人の六校応援団の練習はわずか5回。吹奏楽との合同練習は3回、冷や汗の準備も、暗れ舞台への興奮を押さえ切れなかったようだ。

司会の大谷健二氏(70期)は、軽妙な語り口で、進行を始めた。トップは羽織、はかまの三島弘氏(76期)。第2応援歌「瀬江の水 濁るとも」を指揮、合奏メンバーの六校旗が飛ぶハブニングも。北野高校教諭でOBの鎌田俊一氏(81期)が登場すると、現役席から大きな拍手が起きた。その拍手に乗せられてか、三・三・七拍手のリズムも軽やかだ。

続いて、昭和31年につくられた団旗から、120年を記念して新調した団旗への引継式。スポットライトを浴びた新旧の旗に満場の拍手が……。

最後は菅正徳氏(69期)のリードで校歌「六校の星のしるしを」を大合唱。歌声がフェスティバルホールにごだます感動のシーンとなった。

「フリーフリー北野」のエルで舞台は暗転、フィナーレの幕が静かに下りた。

感動さめやらぬという大谷氏は「吹奏楽同好会の皆さんが応援部を主役に引き立ててくれた。それにしても短期間で、これほどの大舞台で見事な演奏を披露された同好会とここまでの指導をされた佐々木信明先生には改めて感謝するとともに、これからもよろしくお願ひしたい」と話していた。

北野はひとつ。

ひろがる120周年の交歓の輪

＝ 120周年記念祝賀会 ＝

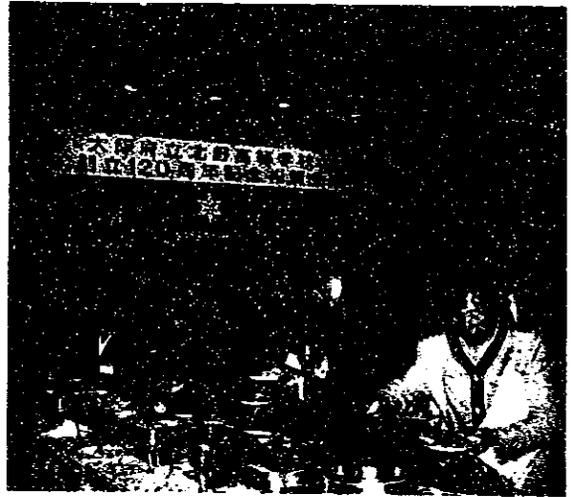
120周年祝賀パーティーの舞台はロイヤルホテルの光彬の間。

主役は約1000名の恩師・OB・関係者。開幕前から熱気の渦。進行役の菅正徳氏(69期)の発声で幕が開いた。足立堯校長の「北野はひとつを実感しました」という挨拶のあと、河崎晃夫副会長(49期)が鴻池藤一会長(43期)に代わって同窓会を代表して挨拶。出席者中最長老OBでかつ北野で教鞭もとった梅原義一氏(36期)が乾杯の音頭をとった。

さしもの広い光彬の間も六稜人でぎっしり、あちこちで同窓の懐かしい輪ができる。

坂田佳友北親会々長の祝詞に続いて、女子同窓生を代表して稲垣徹子さん(63期)が「大手前から泣く泣く北野へ移ったが、今となってはよい高校を卒業したと誇りに思います」とのスピーチ。満場大拍手。

あいかわらずお元気な水鳥喜平先生(大正15年～昭和24年在任)。北野ひとすじ37年の博本正和先生(昭和30年～平成4年在任)が北野時代を語り、それぞれの時代の教え子から軽妙な野次と歓声に加えて暖かく大きな拍手がおこる。



現役の先生方を代表して教頭の肥塚敏彰氏(72期)が120周年記念事業の学校側責任者として謝辞を述べた。

時はまたたく間に過ぎて、興奮さめやらぬ中、北野の名物万年生徒、岡田喜雄氏(40期)が例の六稜羽織で登場、元気に一連拍子を披露してカッサイを浴びる。

校歌斉唱は竹村二郎君(73期)がリード。全員が肩を組んでうたう「六稜の星のしるしを」が場内に大きくこだました。

最後に記念事業実行委員長緒方正美氏(53期)の謝辞で締めくくったもの、あちこちの同期の輪は閉幕を告げる舞台の中でしばらくほどけることがなかった。

記念式典 ご苦労さん

母校愛に燃える熟年

総合プロの西村一男氏(60期)



「記念式典を楽しく遊んでもらおうとした企画と、学校側の学校行事という知的な意図とに若干のズレがあり接点を見つかるまでが苦労と言えれば苦労ですかね」

創立120年の記念行事の総合プロデューサーの言葉としてはいささか物足りないので、意地悪く突っ込むと「音楽会などに出て頂いた人たちの舞台裏の手配な

どが大変と言えれば大変だったんでしょが…」とかわい、その労苦をおくびにも出さない。背広のポケットからチーフをのぞかせ縞のカッタシャツが似合うダンディーな熟年だ。

旧制中学校最後の卒業生で、大学を卒業した昭和26年。朝日放送発足と同時に入社、アナウンサー、放送記者などのあと、報道、制作局長なども。在職中、VOAに向向してアメリカでケネディ大統領の暗殺事件等を取材、ジャーナリストとして貴重な勉強も積んだ、という。

「北野で学んだリベラルな発想と、マスコミで培ったそれをうまく合体させようと努力したのだが」と。大成功だった記念行事にも、十分な納得といかないようだ。

「まだ学校にしても同窓会にしても、発想の出発点が活字から入るといふ古さが残っている。映像から入る視点を早く確立すべきですよ。見て楽しいもの、それが参加を喜びにするし行事を盛り上げますよ」とプロの弁。

130年は、と話を向けると「旧制と新制の橋渡しだった私たちの役割は終わった。女性の卒業生も多くなったし、これからは女性の考え方も十分聴かせてもらいたいものを作ってほしい」と、逆に注文。それにもうひとつ「記念行事などは当日で終わってしまっは駄目、それに積み重ねて歴史ができる。今回の経験を引き継いで貰いたい。また、北野の貴重な資料を倉庫においておくようなことをせず早く史料館をつくり、展示して皆の目に触れさせねば」と付け加えた。熟年の“愛校心”のボルテージは上がる一方だ。

120周年の舞台裏

鎌田俊一

(北野高校教諭・同窓会主任・81期)

80周年、(創立年次を10年繰り上げたため90周年は行われず)100周年、110周年のいずれも、従来別々に行われていた学校記念行事と同窓会記念総会とを、同窓会・学校さらにはPTAの三者一体となった合同行事として何とか行えないものかというのが、今回の記念行事に取り組む学校側スタッフ(足立学校長・肥塚教頭・鎌田同窓会主任)の基本姿勢でした。校務分掌として同窓会を担当しているものとして、単なる同窓会のお手伝いではなく、学校と同窓会との接点となるべき位置で仕事を進めて行きたいという思いでした。

しかし、準備が進むにつれて、共同歩調を取ることがいかにむずかしいかつくづく考えさせられました。

特にフェスティバルホールでの記念行事は、学校としては従来文化祭第2日に行っていた記念講演と芸術鑑賞行事を兼ねるという性格づけでスタートしましたので、さまざまな軋轢がそこから生まれました。120周年記念募金事業として多大な資力と労力を同窓会に仰ぎながら、学校行事としての枠組みをはずさないという方向は、同窓会の方々のお気持ちを逆なでする部分があったでしょうし、先生方にも肩身の狭い辛さを感じさせる結果になったのではといまでも心苦しさが残っています。フェスティバルの座席配分も大きな問題でした。学校行事とし

て生徒の座席を確保しなければならない関係で、同窓会会員の方々には半年も前に出席申し込みを打ち切るというご無理をお願い致しました。事前の希望調査の結果を踏まえて、ある程度の見通しを立てていたとは言え、どの程度の数が出るか、最後まで冷や汗の出る思いでした。生徒の前後半入れ替えという苦肉の策で乗り切れる範囲の希望数に取まったのはまさに偶然的な僥倖としかいいようがありません。1・2年生が式典・記念映像及び第九、3年生は記念映像と記念講演そしてフィナーレ参加という前後半入れ替えについては校内の了解を得るまでかなりの議論を重ねました。

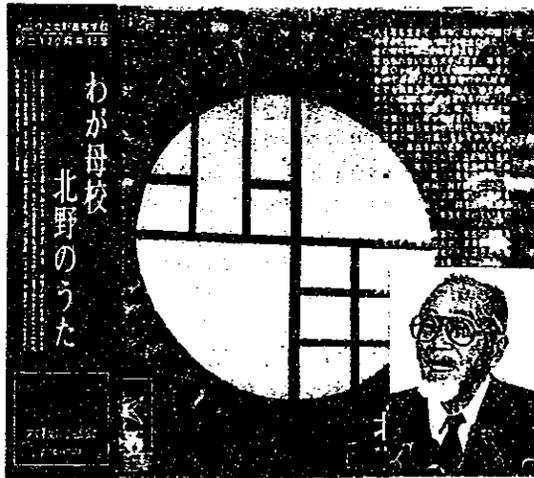
また、今回の記念行事、記念事業は最初からかつちりとした全体構想の上に進んだとは言えぬ面があり、準備の過程でさまざまなアイデアや変更点が生まれ、そのつどプランの見直しや事務的対応を迫られました。

ひとつひとつの事業行事についてそのいきさつや裏話を紹介する紙幅もありませんが、事務的雑雑さの一方で、企画し練り上げて行く創造的な楽しさを味わうこともできました。

表舞台を作ってくくださった方々、記念事業・行事を主担してくださった方々、舞台裏を支えてくださった方々特にフェスティバルの同窓会側の座席調整を引き受けてくださった内藤先輩、ロイヤルのパーティーをお世話いただいた尾崎先輩。紙面の関係で十分な謝意も表せず、またお名前もすべて挙げることもかかないませんが、本当にありがとうございました。

一味違う 記念CD

森繁ブシで聴く北野のうた



「私は森繁さんのファンで、森繁ブシを聴く度にホッとして心の安らぎを感じています。が、母校の校歌を森繁さんの声とあの独特の節で聴き、良かったと言う思いで一杯です」との話が寄せられた。

記念CD「わが母校 北野のうた」は、森繁久弥氏(45期)の歌う校歌「六稜の星のしるしを」と応援歌「澗江の水」などを中心に制作された。

同窓会常任理事で前教頭の前田彰氏(65期)によると、記念事業に決まった後、平成3年5月、足立校長と森繁さんに協力をお願いに行ったところ、全面協力の約束を頂いた。その1月後に、肥塚敏彰教頭(73期)と学校側の計画などを携えて伺った。演奏、録音など手間や時間、それに費用など、学校側が考えていたものよりはるかに大変なことが分かった。

森繁氏は、同席していた作曲家の岩代浩一氏にさりげなく費用は私が出すよ、と言われ途方に暮れていたわたしたちを安心させ、ご二人にお任せすることになり、好意に甘えてしまった。六稜同窓会に贈る逍遙歌「鐘は鳴る」は、森繁氏作詞、岩代氏作曲である。

森繁氏は「古い校歌や新しい校歌、それに応援歌をCDに入れることは大変なことだ。私と岩代さんはこの大仕事にかかった。いいものができてうれしい。古い連中(級友)もうれしいにちがいない。そのままになっていた以前録音した校歌、応援歌を引っ張り出してこのCDに入れた。追憶の校歌だがそれもぜひ聴いてほしい」との思いを原田氏に寄せられたという。なお、ジャケットのデザインは98期の谷卓司氏。

六稜同窓会に贈る逍遙歌「鐘は鳴る」——詞贈紹介——

北野高等学校 逍遙歌 **鐘は鳴る** 作詞 森繁久弥
作曲 岩代浩一

Andantino 3-4/8 4/8拍子 5/4拍子

全七章に3万人の足跡

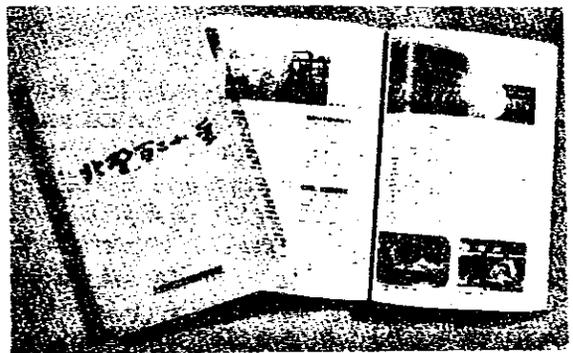
「北野百二十年」刊行

記念誌「北野百二十年」は大作である。多くの諸兄弟が手元に置かれていると思うのでことさら説明するまでもないのだが、やはりその労苦に報いるためにも書き置くことにする。全編7章に加え、北野の芸術家たちとその作品をカラー写真で紹介している。

1章は1873年から77年までの「草創の時代」。第2章は1877年から83年の「中之島時代」。第3章は83年から1902年の「堂島時代」。第4章は校名も北野に変わり中津に移った「北野芝田町時代」。5、6、7章は十三時代を、新制高校が発足する48年までと、それから百周年の73年まで、その後現在までの3つのパートに分け、それぞれの章の初めに年表を付けた編集となっている。

編集委員の大谷部三教諭は、昭和43年に創立百年を記念して作られた「北野百年史」をベースに年代順に抜き出し読みやすくまとめた。最近の20年について新しく調査して書き加えた一などとしたためだが、卒業後30年を超すOBにとって母校を知る唯一のデータとあって改めて頁を開ききっかけにもなっている。

とくに、冒頭の校舎やその周辺の色々のカラー写真は、そこで学んだ卒業生にさまざまな感慨を呼び起こしたものであろう。老朽化した校舎の建て替えのはなしも進んでいるだけに貴重な資料だ。



編集後記に「120年の歴史とそれをつくってきた3万人に近い人々の営為を描く仕事は大変重い。その時代を生きてこられて「違う、違う」と首を振られることも多いでしょうが、きたんのない意見を聞かせてほしい。これが次の校史づくりの糧になれば」と結んである。未購入の皆さんぜひ一読をお願いします。題字は旧職員の前田昭石先生の揮毫。

編集の労苦を称えて、あえて編集委員会を紹介する。大谷先生のほか、高橋昌弘、野尻和正の両先生に加えて、本校OBでもある小出猛(66期)、鎌田俊一、寺井あかね(いずれも81期)、内藤伸彦(87期)の北野高校教諭陣がその編集スタッフ。

4000人が熱い視線 先輩、職員らで六稜会展



創立120周年を記念する事業のトップを切って行われたのが、六稜会展だった。平成5年9月30日から10月4日までの期間中に、会場の大阪・北区のナビオ美術館には卒業生を中心に約4千人が訪れた。

同展には佐伯祐三、吉原治良、手塚治虫ら北野の卒業生70人の作品80余点が展示された。とりわけ佐伯(30期)の「ノートルダム」、吉原(36期)の「あやとりをする少女」、林重義(28期)の「老婆」などは北野高校が所蔵するもので、訪れたひとたちも熱心に見入っていた。

また、手塚(59期)が中学1年と2年の時に描いた鉛筆の写生画も公開され観客の足を止めていた。

展示された作品は旧職員の阿部俊一先生の書や一線で活躍するOB、OGの建築模型、パネル、写真、陶器、漫画などあって鑑賞者の関心も高いものがあった。

六稜会展は昭和38年、創立80年を記念して大阪そごう百貨店で第一回が開かれ、昭和48年の100周年、58年の110周年にそれぞれ北野高校で記念展が開かれた。

実行委員長の中村弘氏(49期)は「職員、PTA、卒業生ら多くの皆さんの協力で開催できた。今後ともよろしく」と感謝の気持ちを話していた。



「北野高等学校国際交流基金」 の創設

大阪府立北野高等学校教頭 肥塚敏彰(72期)

現在、日本の社会の各方面において、「国際化」ということが言われている。教育の面においても、たとえば、AET(外国人英語指導助手)が一昨年(1992年)から全府立高校に配置または招聘されるようになった。また、本年(1994年)から英語科のカリキュラムの中にオーラルコミュニケーションが入ってき、生徒に英語によるコミュニケーション能力育成を図ることになっている。

北野高校は4年前(1990年3月)、アメリカのワシントン州シアトルの近くのケントウッド高校を本校体育科篠原教諭が訪問し、嘉納治五郎の「自他共栄」の書を贈られて以来、ケントウッド高校と毎年教員、生徒が相互にホーム・ステイしながら訪問しあう交流を続けている。

本年も3月に教員1名(英語科 林裕子教諭)と生徒2名がケントウッド高校を訪問した。6月には本校にケントウッド高校の教員と生徒を迎える予定である。

次に今春訪米した林教諭の手記を紹介する。

今春、ケントウッド高校を訪問する機会を与えて頂き、生徒二人と共に、それぞれホームステイをしながら学校に通った。

ワシントン州は、合衆国の中でも比較的落ち着いた所であるが、その中にあるケントも、山と森と湖に囲まれた美しい場所で、閑静な住宅街が点在している。

アメリカでは高校までが義務教育なので、大学進学を目指している生徒、就職を希望する生徒、それから身体・精神に障害を持つ生徒など様々な生徒と一緒に学んでいる。学校で行われる授業は知識の詰め込みというよりも、問題解決能力を養うことを目的としているようだった。生徒は学校という社会の中で、様々な人々と関わり合いながら、ひとりの人間として生きていくことを学んでいるのである。日本の高校生よりもたくましく見えた。

わずか2週間余りの短い滞在ではあったが、観光旅行では決して経験することのできないアメリカの高校生活を、実際にこの眼で見、肌で感じる事ができた。この滞在は英語を教える私にとって貴重な財産となることであろう。

最後に、このような貴重な機会を与えてくださった北野高校の教職員の皆様、並びに経済的援助をくださった六稜同窓会の皆様に、この場をお借りして深く御礼申し上げます。

このような国際交流の実績を踏まえて、創立120周年記念事業の一つとして、「北野高校国際交流基金」の創設をとりあげていただいた。今後、この基金が設けられたならば、教員・生徒の国際交流をケントウッド高校に限らず広げていけたらと考えている。

記念募金・名簿広告への御協力に 心より御礼申し上げます

120周年事業実行委員長
緒方正美

120周年事業の逆行にあたり、募金目標を1億円とか
かけ、各期の全理事が募金委員となって、奔走する1年
間でした。目標には達しませんでした、5900余名の方
から7300万を超える御拠出をいただき、各事業が無事と
り行われましたことうれしく存じます。同窓会々員各位
の御協力で心から御礼申し上げます。

又、記念名簿の発行にあたって、広告を御願いまし
ましたが、これにも168件、1099万円の御協力をいただき、
広告協賛金がこの120周年事業会計のひとつの柱になり
ました。

併せて厚く御礼申し上げます。

各種の記念事業の他に、今回は同窓会として将来に残
せるものとして、(1)国際交流基金、(2)六稜会館建設基金
の二つの基金の創設を目指しました。今後この基金の積
立て運用につきましては、同窓会と致しましても、会員
の皆様の御意見を充分とり入れて、検討致して参りたい
と存じております。

今回の120周年を終了致しまして、つくづく実感致し
ましたことは「北野はひとつ」という連帯意識とその総
合力・実行力のみごとさでありました。

各行事ひとつ、ひとつ、そしてそれぞれの隔々にまで北
野の英知が行きわたって、今回の120周年行事全体の完
成に至ったことを、もう一度想い起しているところであ
ります。

今後とも、北野高校と六稜同窓会の発展のため、皆様
の暖かい御支援を御願ひ致します。

決算報告、募金、広告期別報告

募金者名簿について

(1)決算報告の募金々額と期別リストの合計が異なりますが、
これは入金の中に募金以外の項目が入っている点をチ
ェック中であると御了解願ひます。

あくまで募金額は73,965,897円であります。

(2)募金に応じて下さった方々の御芳名を期別に掲載させ
ていただきました。

充分チェックは致したつもりですが、脱漏などござい
ましたら事務局までお知らせいただければ幸いです。

(3)記念品のCD(北野のうた)、記念誌(北野百二十年)、
名簿の御買上げに御協力下さい。それぞれ充実した内
容であると自負しております。

記念名簿は、今回、実行委員会の中に名簿委員会がお
かれ、各理事の協力のもとに不明者をできるだけ少く
する努力がなされました。

お手許にぜひ一冊おられますことおすすめします。

120周年記念事業特別会計 決算報告

科 目	予 算	決 算
収 入 の 部	円	円
1. 募金収入(同窓会)	85,000,000	73,965,897
2. 募金収入(PTA他)	5,000,000	6,998,000
3. 積み立て金(PTA)	2,100,000	2,000,000
4. 記念祝賀会会費収入	10,000,000	9,729,000
5. 名簿特別会計から	17,000,000	13,000,000
5. 利 息 収 入	500,000	707,627
7. 寄 付 金 収 入	0	30,000
8. 記 念 品 売 上 収 入	0	360,000
収 入 合 計	119,600,000	106,790,524
支 出 の 部		
1. 記念事業費	22,840,000	22,978,360
(1). 記念CD製作費	6,240,000	6,488,870
(2). 記念誌製作費	12,000,000	11,576,245
(3). 六稜会費	4,600,000	4,596,352
(4). 北野120年展	0	316,893
2. 記念行事費	20,300,000	21,713,358
(1). 記念音楽会	2,500,000	2,500,000
(2). 記念式典費用	4,500,000	4,166,307
(3). 映像製作費	2,000,000	4,143,920
(4). 記念講演	100,000	100,000
(5). 祝賀会費	10,000,000	9,649,411
(6). 記 録 費	1,000,000	960,053
(7). 雑 費	200,000	193,667
3. 基金積み立て	60,000,000	35,000,000
(1). 国際交流基金	20,000,000	
(2). 同窓会館建設基金	40,000,000	
4. 運営費	13,990,919	16,395,845
(1). 趣意書印刷発送経費	6,490,919	6,490,919
(2). プログラム製作費	500,000	1,017,125
(3). 臨時会報発行費	4,000,000	3,859,755
(4). 印刷・事務用品費	200,000	688,314
(5). 発送費(記念誌・CD)	2,000,000	2,691,611
(6). 通信費・交通費	200,000	397,621
(7). 雑 費	600,000	1,250,500
(8). 人 件 費	0	2,842,650
5. 繰り越し金	0	7,860,311
支 出 合 計	119,600,000	106,790,524

120周年記念・各種記念品の販売

- (1) 120周年記念CD
(わが母校・北野のうた) } セット価格 5,000円
- (2) 記念誌・北野百二十年 } 個別販売はそれぞれ 3,000円
- (3) 120周年記念名簿 6,000円
(いずれも送料込み)

いずれも同窓会事務局に御申込み下さい。

又、第9関係では下記の製作品の残部があります。御希
望の方は下記に御申し込み下さい。

- 第9全曲演奏CD(残250本) ポスター付 3,000円
- 第9全曲演奏ビデオ(残50本) ポスター付 5,000円
- 全景ポスター(本誌表紙) 1,000円

創立120周年記念音楽会実行委員会

〒562 箕面市今宮3-17-9

谷 卓 司 (98期)

(TEL) 0727-29-4706

FAX 0727-28-6522)

120周年記念募金・記念名簿広告協賛金期別報告

期	記念募金		名簿広告		合計金額 千円	期	記念募金		名簿広告		合計金額 千円
	人数	金額(千円)	件数	金額(千円)			人数	金額(千円)	件数	金額(千円)	
旧職員	87	1,468			1,468	66期	178	2,193	4	260	2,453
27期	1	5			5	67	188	2,245	9	670	2,915
28	1	5			5	68	212	2,901	10	555	3,456
29	1	10			10	69	211	2,774	13	525	3,299
30	2	25			25	70	141	1,772	2	70	1,842
31	3	35	1	35	70	71	147	1,697	2	100	1,797
32	3	315			315	72	155	2,227	2	155	2,382
33	6	105			105	73	135	1,568	1	70	1,638
34	1	10			10	74	147	1,503	3	275	1,778
35	7	85			85	75	114	1,320	3	190	1,510
36	6	112			112	76	91	999	1	35	1,034
37	13	160			160	77	80	863	2	70	933
38	9	100			100	78	105	1,161	3	290	1,451
39	18	294			294	79	75	777	1	35	812
40	27	290	1	120	410	80	85	781	2	105	886
41	24	335			335	81	73	710	1	50	760
42	35	493	1	35	528	82	94	1,016	5	260	1,276
43	39	1,815	2	470	2,285	83	45	429			429
44	31	385			385	84	98	986			986
45	44	587			587	85	60	673	1	50	723
46	42	665			665	86	65	663	3	140	803
47	52	978	2	85	1,063	87	68	736			736
48	51	903	3	155	1,058	88	64	713	1	35	748
49	75	1,010			1,010	89	56	473			473
50	60	820	1	50	870	90	40	385	1	50	435
51	84	1,167	1	35	1,202	91	43	386			386
52	90	1,178			1,178	92	66	613			613
53	95	1,471	3	105	1,576	93	48	435			435
54	79	986			986	94	37	353			353
55	83	1,065			1,065	95	58	504			504
56	100	1,920	1	70	1,990	96	58	622			622
57	102	1,530	9	520	2,050	97	62	537			537
58	97	1,150	3	155	1,305	98	54	460			460
59	101	1,247	2	120	1,367	99	50	428			428
60	85	1,245	8	570	1,815	100	55	486			486
61	151	1,950	9	1,360	3,310	101	46	399			399
62	126	2,375	31	1,765	4,140	102	49	443			443
63	150	1,843	9	430	2,273	103	71	569			569
64	161	1,854	1	50	1,904	104	108	901			901
65	148	1,764	8	700	2,464	105	75	600			600
(注) その他2件、170,000円(広告)						合計	5,903	73,056	168	10,990	84,046

古清淨祐也一孝敏三維治夫... 昭昭著 孝和和維正 信祐第一... 宅島崎本水 京岸口崎下野元本... 第三水宮安嶺山山山山山山山...

日現在 昭昭著 孝和和維正 信祐第一... 宅島崎本水 京岸口崎下野元本... 第三水宮安嶺山山山山山山山...

創立120周年紀念募金者一覽(4)

久期一雄 廣治一明 昭昭著 孝和和維正 信祐第一... 宅島崎本水 京岸口崎下野元本... 第三水宮安嶺山山山山山山山...

昭昭著 孝和和維正 信祐第一... 宅島崎本水 京岸口崎下野元本... 第三水宮安嶺山山山山山山山...

責任の重さを痛感

名誉会長就任に当たって



名誉会長・学校長
山崎 浩 和

前校長・足立 堯 先生 が3年間にわたって本校教育に尽力され今春退任されました後をうけて、このたび着任いたしました。

北野高校120年の輝かしい歴史と揺るぎない伝統に思いを致しますとき、本校校長に就任いたしましたことはまことに光栄でありますとともに、その責任の重さに身のひきしまる思いをいたしております。この上は、本校の不滅の伝統を守るとともに、新しい時代の要請に応えてより一層の発展を図るべく誠心誠意全力を傾けてまいりたく存じます。何とぞ皆様方の温かいご指導御支援をお願い申し上げる次第でございます。

着任早々、肥塚教頭の案内で校内を一巡いたしました。68万余の貴重な書籍・文献を擁する図書館、威容を誇る講堂をはじめ、体育館、各階の教室、殉難乃碑の立つ運動場等、皆様方がかつて多感な青春の日々を過ごされたこの学び舎で、今回も1400余名の生徒諸君は、先輩の後に続くべく真摯で深刻とした高校生活を送っております。

ご承知のとおり、今日、地球環境の保全や社会福祉の充実等、人類的課題が山積しております一方、高校教育においても、生徒数の急減期の真只中において教育の質的向上や個性化が一層求められております。また、国際化情報化等の社会の変化に主体的に対応できる能力の育成が主要な教育課題となっております。

こうした状況の中で、とりわけ北野高校の使命が国家及び社会のすぐれて有為な人材の育成にあることを思うとき、好学の気風を一層高め、高度な教育を受けるにふさわしい学力を十分身につけさせなければならないと考えます。そのため二学期制を本年度から導入して授業時数の確保と授業内容の充実而努力しております。そして勉学とは、真理を学ぶことであり、真に学び知性を磨くことは、人間としての徳を養うことに通じるものと思えます。真の学習を通して、しっかりしたモラルバックボーンと高貴な精神をもつ人物の育成に努めなければならないと思っております。

懸案の校舎改築問題は、全面改築が確定して基本設計の段階にあります。学校といたしましては、21世紀の教育環境にふさわしい、機能的でしかも美観に優れた校舎の実現を願いつつ、各方面のご意見を十分に拝聴しながら慎重に進めてまいりたいと考えております。

また、アメリカのケントウッド高校との交流を通じての国際理解教育についても、本校生徒が国際化時代にふさわしい国際感覚を身につけ異文化理解が深められるよう適切に進めたいと思います。私は前任校において海外姉妹校提携による国際理解教育に努めたささやかな経験がありますが、本校の実情に即した国際交流のあり方を模索しながら着実に推進すべきだと存じます。

終わりにりましたが、六稜同窓会のますますの発展と会員の皆様方の御活躍を心から折念いたしまして新任の御挨拶といたします。

(平成6年4月17日)

〈略歴〉昭和11年和歌山県御坊市に生まれる。

昭和30年3月和歌山県立日高高等学校卒業。同34年広島大学文学部史学科西洋史学専攻卒業。同年4月から府立春日丘高等学校教諭。同39年3月京都大学大学院修了(西洋史学専攻)。同年4月から府立住吉高等学校教諭、府立豊中高等学校教諭。同57年4月大阪府科学教育センター指導主事、同61年大阪府教育委員会指導第一課指導主事。同62年4月から、府立春日丘高等学校教頭、府立東住吉高等学校教頭を経て、平成4年4月府立高槻南高等学校校長。本年4月本校校長として着任。専門教科は社会科(世界史)。

東京六稜会第36回総会報告

平成5年度東京六稜会総会が、38期～105期の会員165名が参加して、6月の第2金曜日、11日午後6時から丸の内日本工業倶楽部で開催された。

総司会63期岩木俊氏の開会の辞で幕を開け、東京六稜会河崎晃夫会長、六稜同窓会名誉会長足立堯母校長、同常任理事67期神宅寿昭氏の挨拶に続き、74期和太守卑良(わだもりひろ)君(陶芸家)が「時代劇の中の陶器たち」と題して、染織品の藍染からの連想でその名が付いた染付(そめつけ)を中国では青華と呼び、元の時代に世界の最先端技術として始められたこと、わが国における磁器の制作は文禄慶長の役の後、朝鮮からの帰化人李参平が有田で初めて成功したこと、染付の中で祥瑞(しょんずい)と呼ばれるものは16世紀、日本風にデザインして中国の景德鎮で焼かせたらしく、現代の貿易形態をも連想させること、加賀の九谷焼と有田焼の間には当時の産業スパイの攻防戦が推測されることなど黒板を使って熱のこもった講演をされ、興味深く聞かせていただいた。

続いてのパーティでは、陶芸写真集「陶・和太守卑良」、カメラバッグ、手造りロースハム等の抽選会が74期深山欣秀君、田中保子君、大橋由利恵君の進行で行われ好評を博した。賞品を提供された方々に改めて御礼申し上げます。宴は、58期森田稔二氏の音頭による校歌、49期中村典美氏による応援歌、18名の新人(大学新入生)紹介と最高潮のうちに幕を閉じた。 飯田裕(74期)

119回の総会から

卓話「校歌からみた大阪の町」

大阪大学名誉教授 藤田 修 (62期)

今日はどういふ話をさせていただこうかと思ったのですが、大阪町人の生活感覚とか意識という話はあちこちでしておりますので、少し変えまして校歌のことから話をさせていただきたいと思っております。北野の校歌はご承知のように、学校が難波御堂から堂島、北野そして十三の地に移ったということが出て参ります。難波御堂というのはご承知かと思うのですが、東本願寺系のお寺であります。もともとは文禄4年、秀吉の時代に、東本願寺を開きました教如上人が大谷本願寺を建立し、慶長3年あの土地に移築された。その後、大谷本願寺は京都に移りましたので、そのまま大阪の南御堂さんとして残って来たといういきさつがあります。大阪の土地が開けたのは、本願寺が、まだ分裂していないとき上町台地の現在の大阪城のところに、石山本願寺ができました。だいたい寺内で10丁ぐらいのと言われておりますが、町を造りました。そのときに、本願寺が建物を建てるといふので、掘りましたら、石がいろいろ出て来た、それで石山だという説があるんですが、それはおそらく難波宮跡の石ではないかという推測をしております。あの大阪城の南側のところに、大極殿跡が非常にきれいに出ておりますが、そういう地域でありました。本願寺と大阪の土地というのは非常に関係が深い訳であります。それが北野中学の最初の場所になります。

それから堂島に移りました。堂島は、今は非常に繁華な所ですが、堂島の起こり、なぜこういう名前が付いたかというのは、案外分かっていなくて、いろいろ説がありますが天王寺のお堂を造る時に材木をおいた、薬師堂があった、あるいは鼓の胴の格好をしているからドウジマだとか、いろんなことを申す訳であります。こういうことで地名の由来は分からないんですが、堂島の地名が早く出て来ますのは、寛正2年(1462)の崇禪寺寺領目録です。阪急京都線の、十三から南方、次が崇禪寺という駅ですが、あのお寺が、室町時代には大阪の北の部分、堂島も含めまして曾根崎・福島・十三のあたりに多くの領地をもっておりました。その崇禪寺の寺領目録の中に堂島は出て参ります。ですから、室町時代から堂島はあります。ついでに申しますが、わたしは曾根崎小学校なんでありまして、曾根崎の土地も崇禪寺寺領目録の中に出て来まして、「埋田之内、角田」という肩書のついた田地が出て参ります。角田町というのは現在の阪急のある所です。梅田というのは今は植物の「梅」を使っている訳ですが、もともとは「埋め田」だったが、あんまりよくないから、「梅田」に変えたんだと

いう伝承があるんですが、この寺領目録の中の記述は、「埋田」と書いてあります。「埋田之内角田」と書いてありますから、恐らく梅田が一番最初に出てくる文献であろうと思っています。(中略)

もっともここが開け始めますのは、元禄年間に堂島新地が認められまして、開発をやる訳ですね、大阪の北、曾根崎新地とか安治川口などもこのころに開発を致します。堂島新地の場合は、徳川幕府がその繁栄策として、幾つかの措置をとるわけですね。例えば新地に対して、自分のあいだ、家役を免除するとか恩恵を与えまして、うまく新地が繁栄するようにするんですが、堂島新地の場合はその中で、お茶屋を作ることを認めたわけですね。もちろん江戸時代には大阪で遊郭は新町しか認めておりません。江戸では吉原だけ、それ以外のところは正式の遊郭ではないんですね。それで、新地には、茶立て女とか茶汲み女とかいう形で遊女を認めましたが、それが125株ありましたから、新しい遊里として出てきたわけですね。近松は「新色里」という表現をしてありますが、曾根崎の露天神で心中をしました有名な「曾根崎心中」の「お初」は、堂島新地の「天満屋」の抱え遊女でありました。それから、風呂屋とかを認めたり、あるいは芝居も2軒ほど認めているんですが、繁栄策を講じました。その後は、曾根崎新地と堂島新地はほぼ一緒になった形で繁栄をしていくということになります。

そのあと、北野中学は、北野に移ったわけですね。現在の済生会病院が建っているところですね。聖門長三という方が私財を役じてあの病院を作られました。どちらかというと貧しい人の医療施設として発展させるということで、あの病院ができたわけですね。その前に、この北野中学があったようであります。だいたい3000坪ぐらいの土地です。ですが、あの土地は余りよくなくて、どちらかというと湿地帯であるわけですね。そういうところを開いて、北野中学ができたということになります。

なぜ十三というか、いろいろ説があつて、宮本又次先生も書いておられるんですが、今のところ、西成郡の古代条里制の13番目で十三だと、十三条だと。近くに十八条もあるのでおそらくそこから来たんだろうということになります。十三の渡しはありましたが、十三村というのはありません。阪急の駅ができたして、この地域は十三ということになりました。この場所は、昔の成小路村だと思つています。こういう形で、北野中学も変遷を経て、現在に至っているわけですね。

校歌の悪口を言うようなんですが、歴史的に厳密に申しますと気になることが二つあります。ひとつは「淀川の深き流れよ」というのがありますが、あれは新淀川でありまして、明治30年代にこの淀川は開かれたんであります。もともとは中津川といひまして淀川の本流から分かれが出ておりました。本流はご承知のとおり、今の中之島を通るわけ、その当時は水が非常に綺麗だったようです。余談であります。大阪の水は上町台地の廻りはまだいい水がとれるんですね、天満も東の部分は天満台地ですから、まだ水がよくて、お酒も造っておりました。

しかし西の部分は海の水が混ざるもんですから、非常に悪くて、淀川の水を汲んで売っておりました。水道がつく明治30年代まで、水屋さんが水船で畑を通して、桶に入れた水を売って回った。500人ぐらい水屋さんがあったようであります。さて、その水は淀川の水を汲んだのであります。特に桜の宮で汲んだ水は非常にいい水で、お茶をたてるのに良い水だという話になっております。今だったらおなかを壊すんじゃないかと思うのですが、淀川が大阪の市中を流れていますと、洪水とかいろいろの問題があるというので、新淀川をまっすぐ流しました。私も淀川の堤の上を断郊競走で走ったんですが、この川は明治以後の改修によってできた川であります。

もうひとつ、これもいやなことになるかも知れませんが、大阪城です。「天才の高き形見よ」ということになっておりました、当然天才は豊臣秀吉だということになると思うんですが、残念ながら現大阪城は徳川期のものです。私は、信長、秀吉の研究もやっているんですが、秀吉というのはすごい天才だと思います。経済的なセンスというのは抜群で、あれだけの人が近世の初頭に出てきたというのは、驚きです。中公新書に『秀吉の経済感覚』というのを書いたんですが、しかし、経済的な感覚が優れ過ぎていて、歯止めが効かないというか、抑制力がなかったように思いますね。ですから小瀬甫庵『太閤記』の冒頭に秀吉は「算勘にしわき男」とあるんですね。要するに金勘定、経済的に非常に厳しい男ということになっています。しかし、すごい能力をもっていて、その能力をもう少し広く使ってくればよかったんじゃないかと思うのですが、この秀吉が大阪城を作った。今も残っていると皆さん思われるかもしれないんですが、これは残念ながら、戦後の研究で、今私たちが目にしてものは、すべて徳川初期、大阪の陣が終わってからのもののであります。これもまた、ものすごいことをやったものだと思うのですが、徳川氏も厳しいというかえげつないといいますが、豊臣家の印象を無くすために焼け残ったお城の建物をつぶして、盛り土をしてですね、そのうえに新しい城を造ったんです。現在発掘調査が進んでおりました、掘りますと出て来ます。それがわかったのは、戦後になってからで、大阪城天守閣の前を掘ってみましたら、7、8メートル下にまた石垣が出て来たんです。調べてみますと、これが本当の豊臣大阪城であるということになりました。豊臣時代の大阪城もすごいんですが、徳川さんはそれに勝るような大きな城を作りました。今わたしたちが見ております城は徳川時代の大阪城なんですが、そういう意味では、「天才」は、秀吉ではなくて徳川さんということになるんです。ちょっと残念なんですが、もう家康は死んでおりました、2代将軍の時代であります。これはいくらぐらいお金がかかったかという計算を致しまして、おそらく年間40万石、そして10年間400万石以上の費用がかかったらという推測をしています。当時日本の石高800万石として10年間に、総石高の半分を使ったということでもあります。5%を年間使っている。ですから、それをやらされた大名は悲惨であ

りまして、随分みんな困ったんですが、そのことによって、実は大阪の復興というものが早められたと思っています。大阪の陣で豊臣氏が滅亡しまして、大阪の町は丸焼けになっている訳ですから、そこにもう一度お城を作ると、どういう経済効果があるかというのは、ここにおられる経済界の方は皆さんすぐにお解りだと思んですが、おそらく泉南空港どころの騒ぎじゃない、人口的に申ししても、当時大阪の人口は10万以上は増えていたというふうな感じがしています。そういうことで、皆さん、校歌の裏はご承知おきいただいた方がよろしいかと思えます。(中畧)

ご承知のように大阪は天下の台所と言われまして、商業の中心であります、その地理的条件はいいわけですね。瀬戸内海、淀川と大和川、あの当時の大和川は大阪へ入って来ておりました、宝永年間に堺に流すようになりましたが、水運の便がいい。もう少し申しますと、江戸も江戸湾に面して水運の便がいいのですが、しかし違う点は、大阪のピンターランドが経済的發展をした地域であったということですね。それは関東とは比べものにならない。江戸を開いた当時では関東の経済状態は非常に悪いわけです。だから、あそこに人工的に江戸という政治都市ができた。それに対して、大阪周辺というのは農村部分も含めてバランスよくできた町である、というのが特色であります。

もう一つの特色は、商業、商業とみんなおっしゃるんですが、大阪は産業都市であると思っています。(中畧) 考えてみますと、輸出の絹と輸入の薬が両方とも大阪にありまして、そういう意味で大阪は国際的な貿易都市であったというふうに考えていだろうと思います。こちらに御子孫の緒方正美先生がおられますが、緒方洪庵先生の遺塾が残っておりまして、大阪大学が所有しているという形で、わたしなんかとも委員として保存・顕彰活動をずっとやらせていただいております。ご覧になってない方は、ぜひ遺塾をのぞいていただきたいんですが、洪庵先生が大阪で勉強なさったということも勿論あるんですが、大阪であれだけの蘭学塾ができて、福沢諭吉をはじめ優れた人材を出せたというのは、大阪の土地柄と関係があると思っています。もっとも大阪の町は都市全体というよりも町内の関係が割合強いんですね。遺塾の話をしてしましたら、洪庵先生が遺塾をお買いになったときの一件書類が残ってまして、どういう形で町内へ加入されるかということまで書いてあります。町内に入るのに洪庵先生は武士身分でありますから、町人でないとの家は買えないので、町人の名義人を作られまして買われた。町年寄とか関係者にちゃんとお金を払われて、近所にきちんとお饅頭まで配っておられますね。(中畧)

大阪はもう少し風格をもたないといけないと思っています。大阪の町人は経済合理主義とか非政治性とか申しましたが、かつての人達はそれなりの風格をもって暮らしていたと思います。このことを最後に申し上げて、終わらせていただきたいと思っています。どうもご清聴ありがとうございました。(文責 編集部 オ二)

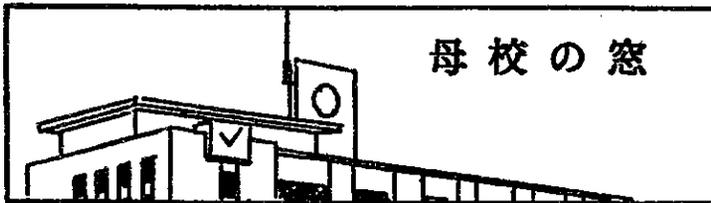
鴻池藤一同窓会会長逝く



平成6年3月9日、六稜同窓会々長 鴻池藤一氏(43期)はかねて御療養のところ、薬石効なく逝去されました。同氏は平成2年、上野精一前会長のあと六稜同窓会々長に就任されました。

大阪工業会々長等の数々の要職につかれ、関西経済界の重鎮として超多忙の中でも、北野120周年記念事業の成功をいつも温く、一段高いところから見守って下さる頼りになる会長でした。同氏にとって120周年式典に出席できなかったことは、まさに痛切の極みであったと推察されます。

「北野」という名前を最も愛され、そこに集う六稜同窓会をあの独特の温顔で率いられた前会長の御冥福を心より御祈り申し上げます。



職員異動

御退職 〈平成5年度〉

一昨年御退職後、引き続き非常勤特別嘱託員としてお勤めでした小西寛一先生(S38~H4、H4~H5)英語、期限付講師としてお勤めでした宮崎香織先生(H4~H5)社会の両先生が、ともに昨春ご退職になりました。

〈平成6年度〉

足立 堯校長先生(同窓会名誉会長)(H3~H6)
大谷 郁三先生(S50~H6)社会
熊谷 佳子先生(H3~H6)養護助教諭
の三先生が、今春ご退職になりました。なお、大谷先生は引き続き非常勤特別嘱託として本校にお勤めいただいております。

御転出

〈平成5年度〉

青木 三郎先生(S55~H5) 国語
は、西寝屋川高校へ
松浦 賢二先生(S55~H5) 社会
は、茨木東高校へ
森田 実先生(S56~H5) 数学
は、西淀川高校へ

猿田 茂先生(S53~H5) 理科
は、松原高校へ
篠原 芳雄先生(S56~H5) 保体
は、阿武野高校へ
高橋 真子先生(S58~H5) 家庭
は、科学教育センターへ

〈平成6年度〉

升方 清一先生(S57~H6) 社会
は磯島高校へ
福岡 賢先生(S55~H6) 数学
は柴島高校へ
宮本 憲武先生(S59~H6) 理科
は城東工業高校へ
田中 伸明先生(S54~H6) 保健体育
は鳥飼高校へ
寺井あかね先生(S52~H6) 英語
は池田北高校へ
高岡 靖弘先生(S56~H6) 書道
は芥川高校へ
玉置 勝先生(H2~H6) 保体
は私立履正社高校へ
中島美保子先生(H5~H6) 家庭科
は食品産業高校へ
田中 昭男事務長(H4~H6) 事務
は藤井寺工業高校へ
足羽 信也主事(H3~H6) 事務
は阿武野高校へ
西田 知史主事(S62~H6) 事務
は三島高校へ
それぞれ御転動になりました。

御着任

〈平成5年度〉

次の先生方をお迎えました。
橋本 友宏先生(社会) 少路高校
奈良 芳信先生(社会) 東寝屋川高校
原田 公彦先生(理科) 福井高校
尾島 泰治先生(保体) 茨木工業高校
また、期限付講師として
中島 美保子先生(家庭)
熊谷 佳子先生(養護助教諭)
(S62~H1)

の二先生をお迎えました。

〈平成6年度〉

次の先生方をお迎えました。
山崎浩和校長先生 高槻南高校から
坂本敏寛先生(社会) 少路高校から
鍛冶明広先生(数学) 島上大冠高校から
福田 稔先生(理科) 布施工業高校から
太田 始先生(保健体育) 茨木西高校から
徳永美知子先生(家庭) 少路高校から
また、期限付講師として
藤井洋子先生(国語)
中西 護先生(書道)
八幡直美先生(養護助教諭)
の三先生をお迎えし、事務職に次の方々をお迎えました。
城 治明事務長 北淀高校から
山口 哲主事 摂津高校から
河内 敬司主事 府教委福利課から

御不幸

島内 義一郎先生(S23~41) 英語
が、昨年1月に
植村 繁一先生(S20~60、60~H2)
国語)が、昨年3月に
川井 義通先生(S18~41) 国語)が、
昨年3月に
浦野 博夫先生(S39~47) 元校長)
が、昨年11月に
西田 驥夫先生(S24~42) 物理)が、
本年2月に
お亡くなりになりました。
心よりご冥福をお祈り申し上げます。

大会出場激励金

一昨年度設置されました、全国大会等に出場する部への激励金規定に基づき、次の部、個人の大会出場に際

し、同窓会より激励金をいただきました。

〈平成4年度〉

山岳部男子 インターハイ出場
山岳部女子 インターハイ出場
水泳部廣瀬真美 近畿大会・IH出場
書道部 近畿総文祭出展
美術部 近畿総文祭出展
囲碁将棋部 近畿大会出場

〈平成5年度〉

陸上部新井梨恵子 近畿大会出場
ありがとうございました。

H4年度 第8回

文化活動振興賞決定

平成4年度第8回文化活動振興賞は生物部に決まりました。

研究誌「LUPÉ」の発行及び文化祭での多岐に亘る発表、継続的な淀川の水鳥調査とその府高等学校生物教育研究会での発表内容が、高く評価されての受賞となりました。

H5年度 第9回

文化活動振興賞決定

平成5年度第9回文化活動振興賞は生物研究部及びオーケストラ部に決まりました。

生物研究部は、二年連続二回目の受賞。部誌「LUPÉ」・文化祭への意欲的な取り組みに加え、大阪府西部研究発表会における「キクの花弁からの組織培養」「冬季淀川水鳥調査」の発表内容が高く評価されての受賞でした。

オーケストラ部は、文化祭におけるモーツァルト交響曲40番「英雄」の演奏に加え、なによりも創立120周年記念音楽会への参画、準備・練習段階での貢献度が評価されての三回目の受賞となりました。

第3回文化活動助成金決定

文化祭当日、振興賞の授与式に続いて助成金の審査が行われ、申請のあったオーケストラ部、生物部、放送部に平成5年度第3回文化活動助成金が与えられることになりました。

クラブだより

【ラグビー部】

公式戦、大阪総体(春季大会)、47-0藤井寺工、107-0泉尾、8-10太成。全国大会予選、46-0四条吸北、20-13今宮、24-10阪南大、7-49近大附。近畿大会予選(新人戦)、51-5藤井寺、12-5大体大浪商、0-72啓光。
定期戦、21-14洛北、46-0神戸、14-43天王寺。

連絡先 六稜ラグビークラブ、〒560
豊中市緑丘2-20-7、自見弘之、
TEL06-849-3633 医院TEL06-301-3962

【器械体操】

93年5月、堺市立金岡公園体育館にて大阪高校春季体育大会参加。7月下旬、堺市立大浜体育館にて府立高校大会参加。8月上旬、同じく大浜体育館にて二部大会参加。8月下旬同じく大浜体育館にて大阪高校総合体育大会参加。11月上旬、金岡公園体育館にて新人大会参加。また、8月1日～5日、本校にて合宿。

【サッカー部】

公式戦、春季大会、4回戦シード2-1布施、2-0此花学院、1-4近大附属(ベスト16)。秋季大会、4回戦シード1-1(PK2-3)島上大冠。大阪高校総合体育大会、7-0浪速工、3-0門真、0-1太成。定期戦、5-0天王寺、0-1膳所。
連絡先 〒563-01大阪府豊能郡豊能町新光風台5-9-4
難波寿太郎(六稜サッカー部OB会)
電話番号0727-38-6837

【柔道部】

(男子)

- 平成5年全国大会予選
対茨木勝、対北陽負。
- 平成5年大阪総体
対八尾東負。
- 平成5年新人戦予選
対三島負。
- 平成6年北地区学年別大会
(1年の部) 対箕面学園負。

(2年の部) 対関大一高負。

(女子)

- 平成5年全国大会予選。
対布施勝、対柏原東勝、対泉南勝、対天王寺負。
- 平成6年近畿大会予選。
対堺上勝、対枚方西勝、対狹山負。
府下ベスト8
- 平成6年全国体重大別選手権予選。
岡留3位。

連絡先 〒561 豊中市庄内東町6-8-4 福田 稔宛

【ソフトボール部】

春期公立研修リーグ、1-5泉北、7-1生野。インターハイ予選、1-3大塚。大阪総体、13-3城星学園、0-15大谷。府立大会、20-11枚方、0-12福井。夏期公立研修リーグ、4-4岸和田産業、3-13生野、11-12大和川、1年生大会、15-5浪花女子、4-10交野。部別大会、8-9蕉英。一学区大会、8-1池田北、2-7箕面、12-14刀根山、20-8少路。

連絡先 〒532 大阪市淀川区新北野2丁目5-13 北野高校

【水泳部】

公式戦、中央、女400混継16位清田、小郷、四野、入江。女400継20位小郷、入江、清田、安川。女200混26位清田。女100平28位四野。女100自30位入江。高校総体女400継19位入江、森田、川合、安川。女200平25位四野。男200蝶29位吉富。新人戦、女200継11位入江、安川、横山、森田、女400混継13位横山、四野、入江、安川。男200継30位古谷、鳥谷、吉富、竹内。女100自12位入江、20位安川。女100平20位四野、女200混30位横山。男200混24位月井。

定期戦、対市岡負、対大手前勝、三校戦3位。

連絡先 平成二年卒、松山 貴志
〒532 大阪市淀川区西宮原1-3-2-502 TEL06-392-5361

【男子テニス部】

春季総体、奥村ベスト32、筆坂、海老原(健)本戦出場、明山・和田組本

戦出場、パンクラフト杯ダブルス、明山・和田組ベスト16、海老原(健)内田組、海老原(仁)森組本戦出場、大阪春季団体戦ベスト8、赤坂杯、海老原(仁)準優勝、友広本戦出場。夏季サンケイジュニア、関ベスト16、友広本戦出場。夏季総体、関ベスト64、森本戦出場、関・友広組ベスト32。パンクラフト杯、友広ベスト16、秋季団体戦、本戦出場、赤坂杯ダブルス、関・友広組、石原・谷口組ベスト8。田村杯、関ベスト32、友広本戦出場。ヤマハカップ関本戦出場。欧州派遣選考会大阪大会、関、友広出場。ウィンタージュニア(B級)、友広、海老原(仁)、森、本戦出場。春季サンケイジュニア、友広ベスト16、関、海老原(仁)、菅野、本戦出場。

【女子ハンドボール部】

春季総体8-20金蘭会。天高戦6-14(現役)19-14(新人)会長杯19-11桜塚A。15-7東淀川。10-17刀根山。準優勝。秋季総体16-12東淀川。8-22福島女子。豊中市民大会11-8桜塚。17-7東豊中。14-18刀根山。準優勝。現在、春季総体中央大会進出を目標に活動中。

【卓球部】

近畿大会大阪府予選、団体戦ベスト32、北摂大会、個人ベスト8、大阪高校新人大会、団体戦2回戦負。大阪高校総体団体戦ベスト16、シード権獲得、個人4回戦。近畿大会へあと一歩。

【陸上競技部】

93年大阪I-H、豊田400m、佐藤800m、4×100(中西、豊田、吉川、森脇)、吉川800m、新井100m、川崎200m、4×100(浜田、川崎、法貴、新井)。羽馬幡決勝進出。強化記録会、4×100(大坂、川崎、法貴、新井)総合3位。大阪総体、200m森井、森脇、佐藤1500総合6位、白銀110H、佐藤、白銀400H、山下800新井100総合3位、川崎200総合7位、法貴、川崎400、西山800、三宅3000、大坂110H、4×100(大坂、川崎、法貴、新井)総合4位、山田100総合6位。国体予選、山下800総合4

位、川崎400総合6位。大阪ジュニア、森井、森脇200、佐藤1500、新井100総合5位、200総合3位、川崎200総合4位、400総合3位、法貴400、羽馬幡、廣井槍。大阪駅伝、男子18位、女子31位。新井近畿大会100m出場。

【女子バスケットボール部】

公式戦、大阪高校総体一回戦69-42芥川、二回戦39-89成蹊。府立高校大会予選42-34春日丘、79-41渋谷、70-38高槻北、84-32芥川。決勝リーグ、29-71池田北、49-36島本、49-58茨木。新人戦一回戦101-14淀川女子、二回戦113-36能勢、三回戦70-49島上大冠、四回戦13-107蕪英、中央大会一回戦56-54金岡、二回戦16-110蕪英。定期戦、天高戦52-32天王寺。

連絡先 〒662 西宮市苦楽園三番町10-47 岩田江一

☎0798-72-1726

【女子テニス部】

サンケイジュニア、河田・北川組本戦出場。総体、川上本戦出場。パンクラフト杯、川上、米田、金井本戦出場。

連絡先 〒532 大阪市淀川区新北野2-5-13 中田義彦

☎06-303-5661

【男子バスケットボール部】

公式戦、大阪高校総体一回戦64-46高槻北、二回戦69-56茨木西、三回戦73-59東豊中、四回戦50-109。府立高校大会60-30淀商、74-55池田、66-68摂津、69-63福井、50-46豊島、38-53芥川。新人戦48-52刀根山。定期戦、天高戦、56-59天王寺。

連絡先 〒662 西宮市苦楽園二番町10-47 岩田江一

☎0798-72-1726

【男子ハンドボール部】

春季総体8-18北千里、秋季総体18-11豊中、32-5追手門学院、12-18桜ノ宮。天高戦20-14(新人)、13-20(現役)。

【六稜山岳部】

我が六稜山岳部では、実戦的かつ

能率的トレーニングを日々行なっています。その成果は、92年の夏のインターハイ(宮崎県)男子20位、女子7位という輝やかな実績の他、93年の大阪高校春季登山大会4位、93年の大阪高校秋季登山大会2位などの大会関係や、夏山の北アルプス、春山の大峰山系など多方面にわたって現われ出ています。我が山岳部のメインとなる春山・夏山登山では、夜の星で埋めつくされたきらめくばかりの全天を展望したり、多くの野鳥や草花に出会うことも多々あります。このように我が山岳部では、ただ単に登山するのみということではなく、「山を楽しむ」をモットーに多彩な活動を展開しており、自然というものを大きな視野でとらえることが可能な唯一のクラブです。

連絡先 〒532 大阪市淀川区東三国4-17-7 メゾンハヤシ201号室
新大阪教育センター内 六稜山岳会事務局 ☎06-395-3521

【女子バレーボール部】

公式戦、大阪府立総体、2-1千里、2-0島銅、第2回戦、0-2吹田。大阪府立高大会、2-1島上、2-0島上大冠、0-2少路。秋季部別大会、2-0大東、1-2城南、2-0長野。春高バレー府予選、0-2泉州。定期戦、0-2天王寺。

【硬式野球部】

1993年度、春季近畿地区予選大阪府大会、2回戦1-0東淀工、3回戦1-0成城工、4回戦0-8近大附。定期戦、6-12市岡、2-0天王寺。全国高等学校野球選手権記念大会大阪府予選、2回戦3-0豊島、3回戦9-2堺上、4回戦6-1泉大津、5回戦3-1住吉、準々決勝2-9近大附、ベスト8入り。秋季近畿地区予選大阪府大会、1回戦1-2大高。

【ESS部】

文化祭にて「サザエ in English World」発表。現在、英会話、英文タイプライター英検に向けての学習、読書など、幅広く活躍中。

【吹奏楽同好会】

1993年

6月 本校文化祭

10月 第1ブロック音楽会

創立120周年記念式典にて
校歌・応援歌演奏

11月 六校交歓音楽祭

1993年7月より正式に同好会として活動を続けています。今年は合宿など昨年より一層充実した活動ができるよう頑張っていこうと思います。

【漫画研究同好会】

文化祭にて、パンフレットの表紙イラスト作成とイラスト展示。8月豊中市市民会館において連合漫画祭参加。10月、秋の別冊会誌発行。なお会誌は休刊。

連絡先 〒562 箕面市稲2-7-19 一階 千絵

【放送部】

文化祭にて放送劇「ある国で」を上演。7月よりKBS京都・全国民間放送連盟主催「こちら青春放送局」への応募作品を制作開始。1月19日に同放送局にて放送される。その他として、昼の放送や各種行事での音響を担当するなどの活動を行っている。

【演劇部】

文化祭にて「奇跡の人」～The Miracle Worker～を上演しました。現在、平成6年度文化祭に向けて練習中です。

【コーラス部】

4月 新入生歓迎演奏会

6月 文化祭、混声合唱組曲「旅の途の風に」より3曲、他3曲

8月 夏期合宿（於：神戸垂水）

10月 創立120周年記念音楽祭（於：フェスティバルホール）

「ベートーヴェン交響曲第九番ニ短調作品125（合唱付）

11月 六校祭（於：夕陽丘高校）

「君をのせて」他2曲

合同曲「大地讃頌」他2曲

現在、新入生歓迎演奏会に向けて練習中です。少人数ながら、個性あふれるメンバーでpowerfulに活動中！

連絡先 〒533 大阪市東淀川区相川1-3-27 発声会事務局
(水本淳也方)

【物理研究部】

文化祭において、オリジナルパソコンソフト、ゲーム6種（PC98×4、PC88×2）、ミュージック4種（PC88×4）、合計10種発表。すべて、BASIC言語による作品。
パソコンソフトを雑誌に投稿。
アマチュア無線4級受験。

【美術部】

6月、文化祭では3教室で展示。初の試み「先生方の肖像」が好評。

7月、第45回高校展出品（3年藤原デザイン部門奨励賞、デザイン部門学校奨励賞受賞）

1月、第1ブロック展出品（箕面市民ギャラリー）

今年もマイペースな活動をしている。

連絡先 OB名簿をまとめています。
北野高校美術部宛、御連絡を！

【生物研究部】

3月 部誌「LUPE」第30号発刊

4月 野鳥標識調査を見学

5月 箕面にて合同観察会

新入部員歓迎会「妙見山」

6月 文化祭出展

8月 京都府「美山」にて夏期合宿

「大阪府高校生物部交流会」

第二回総会

9月 琵琶湖一周ツアーに参加

11月 大阪府高等学校生物研究発表会にて発表

昆陽池にて合同観察会

12～1月 部誌「LUPE」第32号

作成

（その他）第10回「自然は友だち、わたしの自然観察路コンクール」に入選

平成4年度文化活動振興賞、平成5年度助成金および文化活動振興賞をいただき、部員一同大喜びで、これからの活動に向けより一層の意欲を感じました。ありがとうございます。

連絡先 〒939-27 富山県婦負郡婦中町友坂243 上村 清

☎0764-69-5426

【文芸部】

6月の文化祭と2月に部誌「幻」発行。昨年にひきつづき部員は一名。今年の一年生に期待しています。

連絡先 〒560 豊中市蛍池中町3-9-22 堀田恵美子

【書道部】

4月 2泊3日の高野山合宿。

6月 文化祭で約100点の作品陳列。
村田元校長先生の特別御参加で満員の講堂で懇話の席書会。

1月 府下高校書道展に出品。於市立天王寺美術館。

2月 大阪府高校芸術文化祭出品。
2年村上仁実が奨励賞受賞。更に審査後、全国高校総合文化祭（8月、愛媛開催）への大阪府代表として出品を推薦される。

連絡先 北野高校内 高岡靖弘まで

【オーケストラ部】

4月 新入生歓迎演奏会

6月 文化祭

モーツァルト交響曲第四十番

8月 夏期合宿

10月 第1ブロック高等学校音楽会

モーツァルト

歌劇ドン・ジョヴァンニ序曲

11月 六校祭

ベートーヴェン

交響曲第3番 第1楽章

1月 扇町教会音楽礼拝

主よ人の望みの喜びよ

アヴェ・ヴェルム・コルプス

現在は文化祭にむけてベートーヴェンの8番交響曲の練習中です。

○化学研究部、地学研究部、写真部、新聞部、園芸同好会は部員がいなくなり、現在活動を休止しています。

市岡野球定期戦 7月2日

日生球場で熱い応援を！

昭和30年に復活した伝統の野球部、北野高校対市岡高校の定期戦は、7月2日午後2時から、大阪・森之宮の日生球場で行われる。

昨夏は両校ともにベスト8に選出し、浪速のファンをわかせた。同寮生諸氏の多数の応援を御願います。

プロフィール

“マルチメディアで頑張る” 120周年の立役者 谷君に聞く

谷 卓司君 (98期)



谷君は、120周年記念式典で上映された「映像で綴るわが北野120年の風景」の立案者であり、製作者である。同時に記念音楽会の実行スタッフで、プログラムの編集長。団内新聞の発行やら、記念写真のデザインも。120周年のシンボルマークのデザインも彼の仕事。このほか記念CDと「第九」CDのパッケージデザインもと大活躍。今は記念音楽会のビデオを制作中だという。そんな谷君にインタビューした。

—「映像」で一番苦労したことは……。

「例えば卒業式などで、プロの取材スタッフが撮りたい画像は、実際の式では撮れない。撮る側と学校側のどちらの言い分もわかるだけに困りました」

—反省点と、これは自慢できるという点を。

「上映システムの最終チェックの余裕がなく、本番の時に4人がかりで手作業しました。緊張しましたね。昭和11年と現代の運動会を対比させたシーンはいいでしょう。昔のフィルムが残っていたのは幸運でした。どちらにも背景に同じ校舎があるというのが意味深いですね」
—卒業を棒にふっての活躍だったのですが、得たものはありましたか。

「一番大きいのは多くの人と知りあえたことです。上下と横のつながり、北野の人脈に文字どおり支えられて仕事できました。自分にとって、これからの生き方にもつながる大きな成果といえます。これから、マルチメディアの世界でがんばりたいと思っていますが、そんなことを考えるようになったのも、この仕事や、これを通して知り合った人々からの影響です」

—今年はこちらから……。

「記念音楽会のビデオはあと少しで仕上がります。今年は何んとか修士論文を書き上げて卒業しないと……。がんばります」

谷君は昭和61年卒。京都大学工学部を経て京都工芸繊維大学大学院で造形工学を専攻。

編集後記

北野の祝典、120周年記念行事は幕を閉じた。2年以上の間、この準備に追われた実行委員各位にとっては、それぞれの持場で御苦労も多かったことと思う。心からの謝意を表したい。この実行委員会の中であって、広報委員会は、昨年7月発行した120周年記念臨時号をはじめとして、この記念周年の行事の盛上げのためのお手伝いをしてきた。特に、募金1億円達成のために、あらゆる機会を捉えて訴えてきたつもりである。残念ながら金額的には目標に達しなかったものの、5900余名の御賛同を得られたことは、100周年のときが4200余名であったことを考えればまず満足すべきかも知れない。

今回の目玉ともいえるべき「第九」もまさに圧巻であったし、六稜会展、記念誌・CDなどもそれぞれ立派な事業として会員に深い感銘をあたえた。

しかし、一面では今回は学校行事としての側面をとり入れたために学校側には思いの他の御苦労をかけすぎたという反省もあろう。

検討すべき問題はいろいろ残したもの、オール北野の結集でまず意義のある120周年を終えたことを喜びたい。そして、これを機に、国際交流基金の充実、史料館併設の六稜会館の完成など広く学校・同窓会が相携えられる施設機構も同窓会として考えて行かねばならない。校舎の改築問題も含めて、六稜同窓会の手手には問題が山積している。120周年の広報委員会はこの号の発刊をもって解散となる。各位の御協力に厚く御礼を申し上げますとともに新しい次の一歩を踏み出す六稜同窓会のさらなる発展を心から祈りたいと思う。(M. K)

事務局よりの御願い

○振替口座番号の形式が変わります。

年会費口座 00990-4-68025 六稜同窓会

名簿口座 00910-7-309004 六稜同窓会名簿刊行会

○同窓会事務局のTEL・FAXは下記の通りです。

TEL 06-306-0374 / 1384 FAX 06-306-1335